

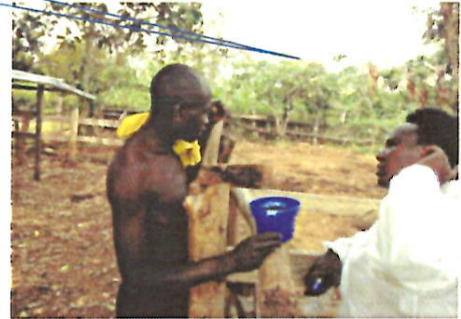
ウガンダより

2月のM情報は間に合いませんでした…

【乳房炎について】

ストリップカップの説明中。

ウガンダの南西部、ココムバララにも乳房炎は存在します。しかし、臨床症状を示している個体は多くなく、個体そのものへの影響というよりも、安全な牛乳を生産するという観点から乳房炎は重要だといえます。残念ながら日本の農家が日々実施しているようなPLテストなどのチェックはほとんどされていません。一般的には体細胞のチェックもされておらず、牛乳の出荷や薬剤使用に関する法整備が不十分なため、抗生剤の乱用も考えられ、安全な乳生産を安定して行うというのを目指していかなければなりません。



そこで、農場にどれほどの乳房炎陽性牛がいて、その原因菌はどのようなものがあるのか、協力農家を対象に調査をしています。日本のように簡単に細菌培養のための培地も手に入らないので、自分で血液寒天培地やマッコニー寒天培地などを作るところからスタートです。獣医事務所で飼っている羊は、培地作成に必要な血液を提供するためにプロジェクトで購入しました。THMSで働いていた時は何の気なしに使用していた培地を作成するところから始めてみて、培地を作成する会社やそれを届ける会社の存在のありがたみを実感しました。



これでスムーズに培地ができ、菌培養ができればいいのですが、そうはいかないのがウガンダです。電気供給が突然止まって丸一日停電したりします。培地にびっしり水滴がついたり、保温機が使えなかったり、作業が全然進まなくなってしまう。

培地のための血液を提供。
最近、顔につくダニが悩み。

【どんな菌が原因になっている?】

機械搾乳を行っていないため、乳頭口はとてもきれいです(ほぼスコア1)。また、ほとんどが牛舎のない昼夜放牧をしているため、牛は比較的清潔で、乳房もきれいな農場が多いです。そのため、大腸菌などの環境性の乳房炎はほとんど問題になっていません。しかしディッピング消毒や、そもそも乳頭や搾乳者自身の手を清潔にすることが不十分である場合が多いので、伝染性の黄色ブドウ球菌(SA)などが乳房炎の原因菌としては重要になってきます。農場巡回の乳房炎チェックとその後の菌検査でSAと判定されたものは、最後搾りを推奨しています。そして、一頭の牛につき一枚のタオルでの清拭や搾乳者の手を清潔に保つことなどを農家に提案しています。



高泌乳牛にとって乳房炎は職業病というところがあります。しかしムバララでは乳房炎はまだ大きな問題となつてはいません(そもそも菌検査さえされていないという現状ですが)。これからウガンダ酪農も近代化がどんどん進んでいき、そうするとケトosisなどの代謝病や乳房炎は必ず増えてくるでしょう。そのジレンマを今から容易に想像することができます。そのためハードマネージメント(群管理)といった側面を踏まえつつ、ウガンダの農家が継続して実行可能な提案をしていくことが必要だと感じています。